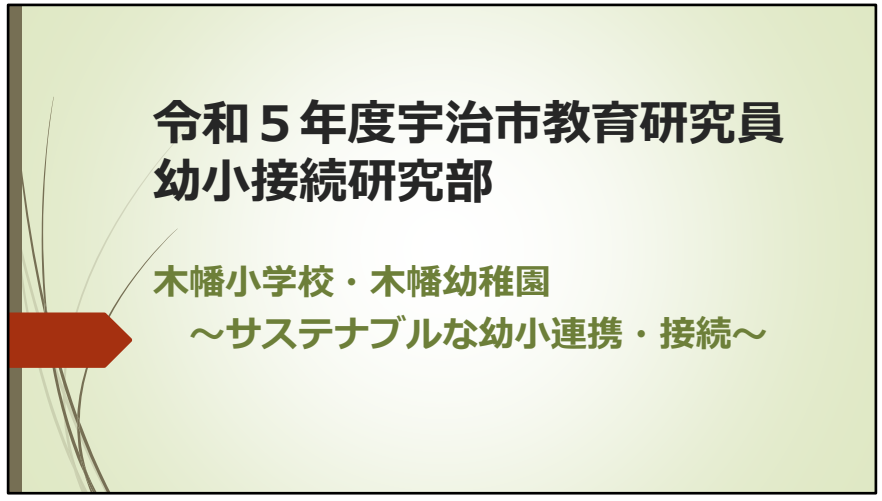
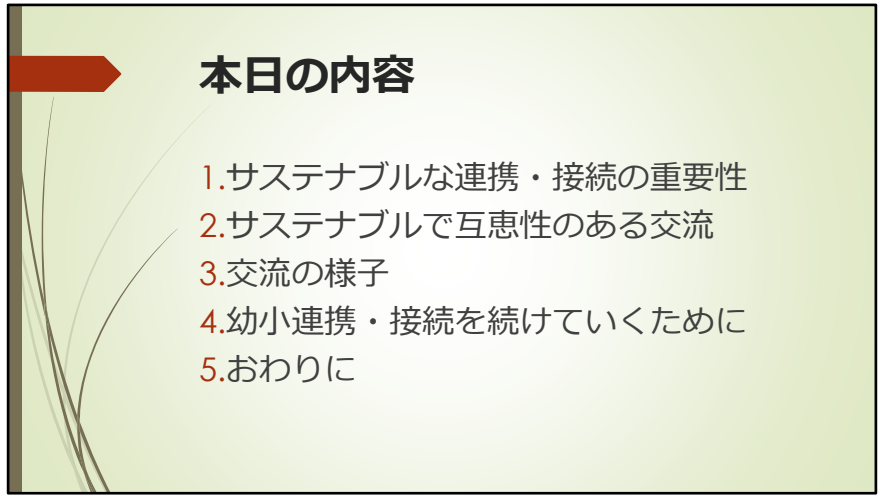
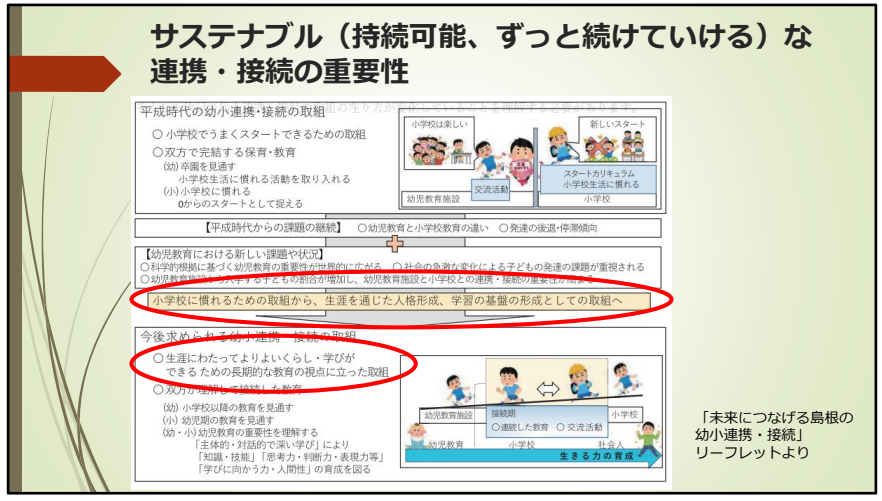


令和２年度より接続カリキュラムの作成等を通して、木幡小学校と木幡幼稚園で進めてきた幼小接続。
しかし、業務の多様化や人事異動等により、昨年度については、もう一歩進んだ幼小接続が難しく、接続カリキュラムや架け橋期のカリキュラムについても
止まったままになってしまいました。
そこで、今年度は、「サステナブルな幼小連携・接続」と題して、誰でもいつでも持続可能な方法を探りながら、
互いの教育を知り、
教育がつながる「架け橋」となるような連携・接続について共同研究しました。

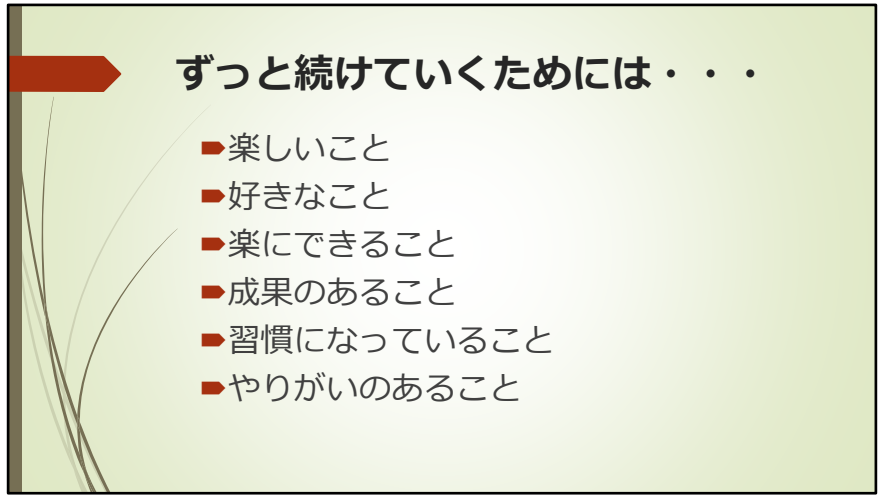

本日の内容
1.サステナブルな連携・接続の重要性
2.サステナブルで互恵性のある交流
3.交流の様子
4.幼小連携・接続を続けていくために
5.おわりに

スライドと同じ

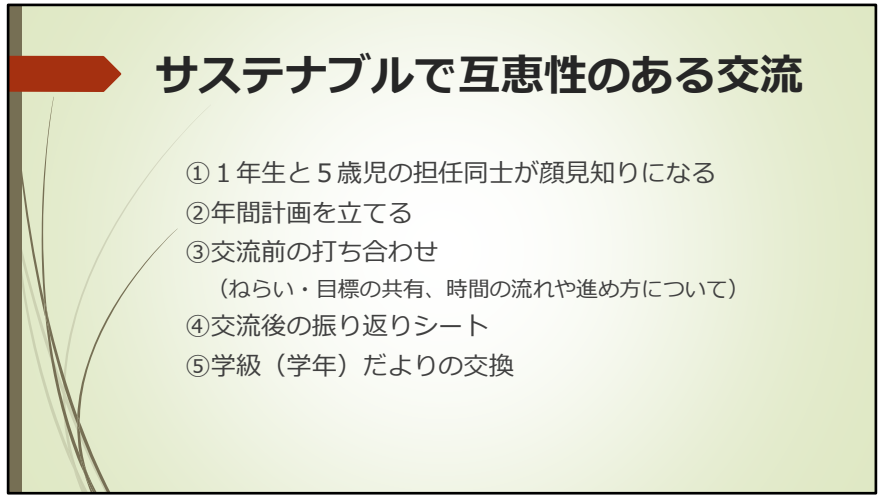


「未来につなげる島根の
幼小連携・接続」
リーフレットより

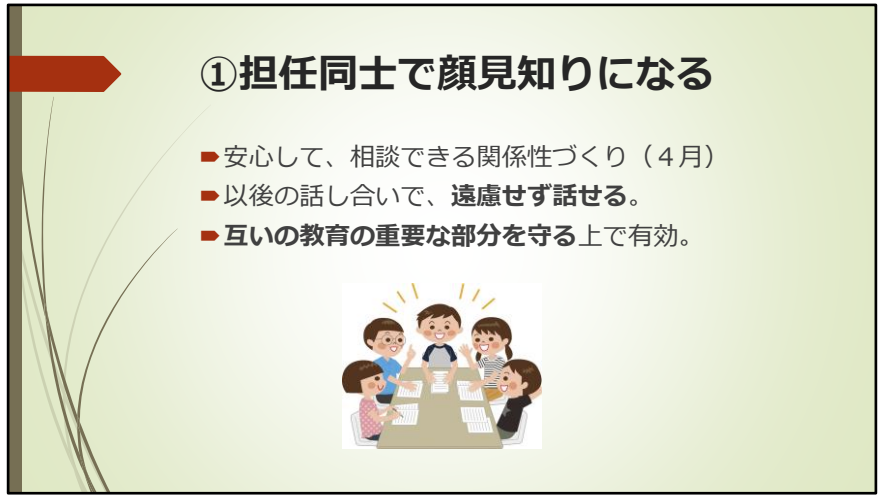
スライドと同じ


ずっと続けていくためには・・・
楽しいこと
好きなこと
楽にできること
成果のあること
習慣になっていること
やりがいのあること

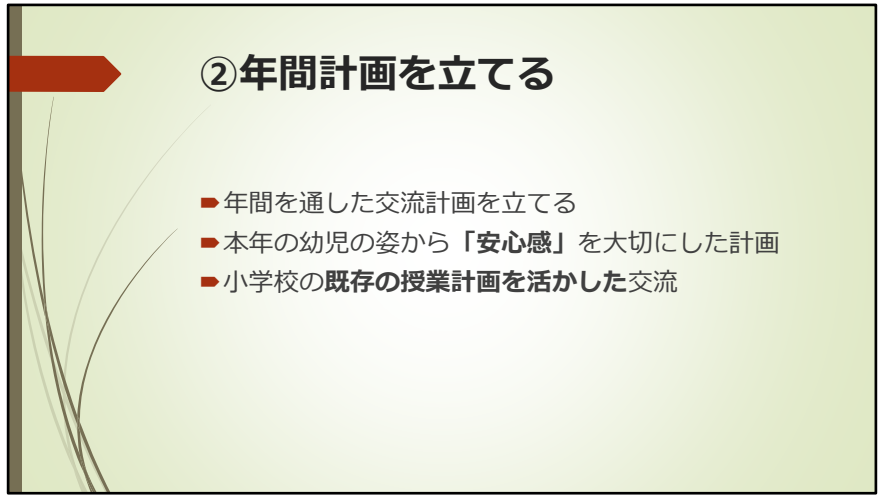
スライドと同じ



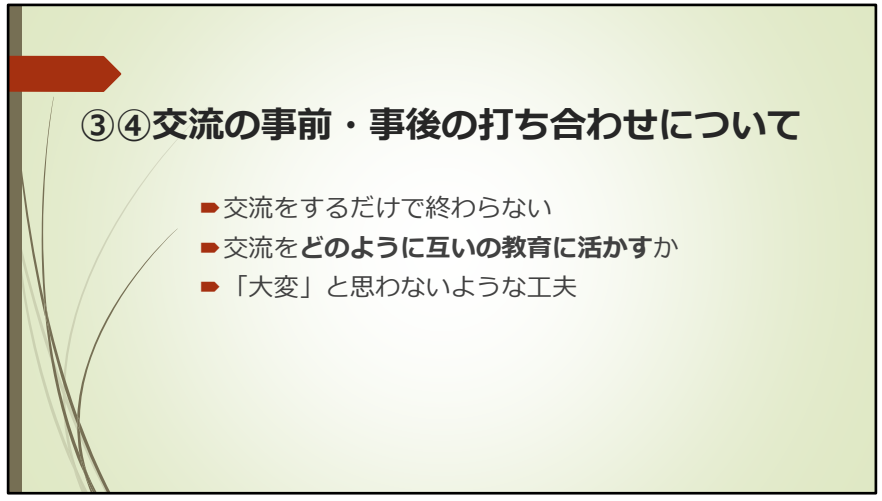
まずは、交流についてです。
新型コロナウイルスが第５類に移行され、人と人とのつながりが戻りつつあります。
そこで今年度は、子ども同士の接続である交流についても、サステナブルな方法を探りながら進めようということになりました。
今までの交流からさらに１歩進めた「互恵性のある交流」のために大切なこととして、以下の５点を考えました。



まずは、１年生の担任と５歳児の担任が顔見知りになることの大切さです。
例年、顔合わせというと、校園長レベルでの挨拶が多かったのですが、令和２年度からは、幼小接続担当として、幼稚園の担当者と、教務主任の先生で顔合わせや話し合いをすることが多くなっていました。
しかし、異動等で担当者が変わると、引き継ぎがうまくいかず、昨年度までしていたことができなくなったり、忙しいかもしれないと遠慮がちになってしまったりして、有意義な連携を継続することが難しいという課題がありました。
４・５月という早い時期に、子どもたちに直結する担任同士が顔を合わせることで、
安心して相談できる関係性づくりができ、以後の話し合いで互いの教育の重要な部分を守りながら交流活動を考えることができます。

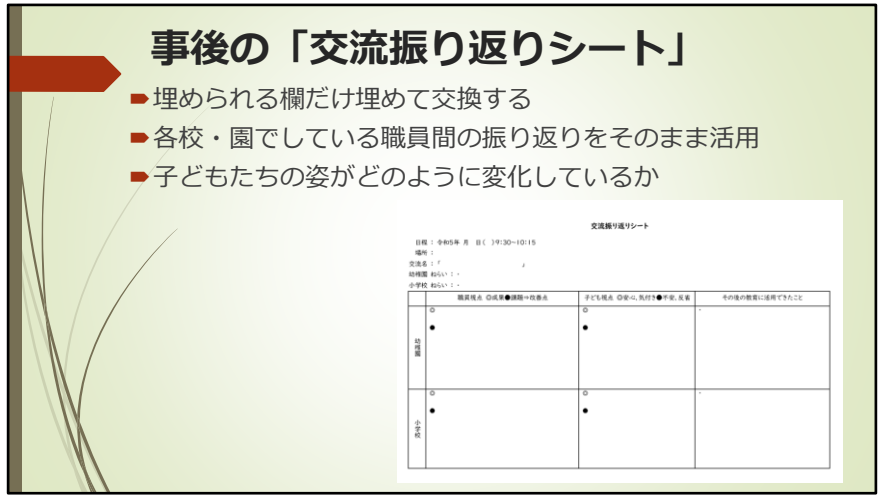


各校園の年間計画を持ち寄り、その中に、年間を通した交流計画を立てて、入れ込むことで、「忙しくて計画できなかった」「予定が合わない」などの理由で交流ができなくなることを防ぐようにしました。
また今年度、不安感・緊張感が高い幼児が多い実態から、最初の出会いの交流を幼稚園で行いたい旨を伝えました。
小学校からも、それが良いとのことで、既存の授業計画の中から、生活科で「遊び場に出掛けよう」という単元があることから、その中で「幼稚園に出掛けよう」として、幼稚園での交流を
双方の教育的意義を守りながら位置づけることができました。
その他の交流についても、１年生の授業計画の中から、幼稚園の子どもたちと一緒にできそうなことを教えていただき、
交流の仕方を考えることができました。
このように、既存の機会を利用して、交流計画を立てることも、サステナブルにつながっていることだと思います。

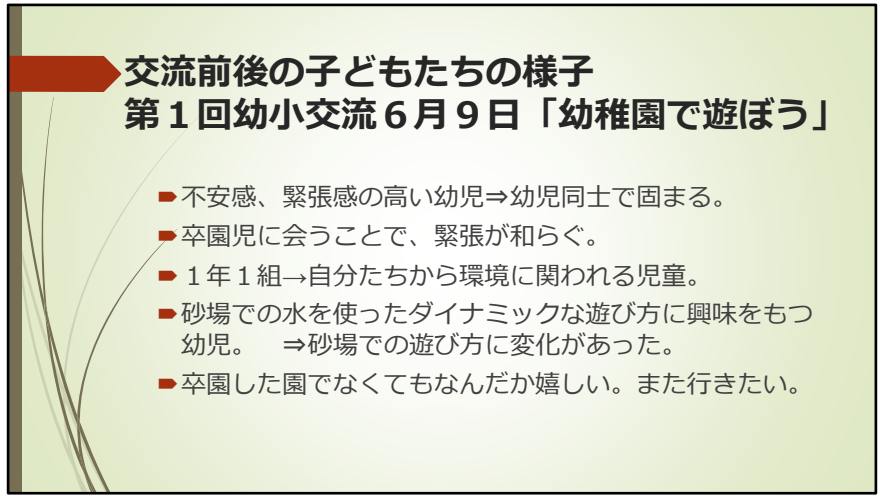


交流については、事前事後の打ち合わせが重要であると考えます。
ただ当日を迎えるだけでは、「小学生が面倒を見る・幼稚園児はお客さん」のような構図が出来てしまうからです。
互いに互恵性のある交流にするためにも、事前に互いのねらいをもち、また、事後には互いの教育にどのように生かせたかを確認することが必要であると考えました。
ただ、その都度時間を取って集まって打ち合わせとなると、「大変だ」「時間がない」となり、持続することが不可能になると思い、
「交流振り返りシート」というものを作成して、メールで送り合うようにしました。
メールについても、幼稚園では個人でも送受信を確認することができますが、
小学校では、アクティブメールは管理職しか操作ができず、このようなやり取りには負担が生じているとのことでした。

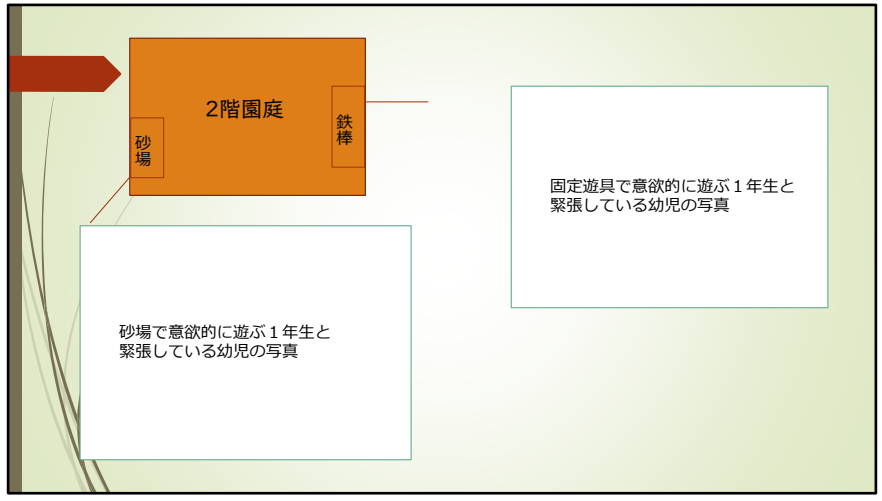
現在、学校教育課の方で、データ等をはじめとするやりとりの利便性を高めるための整備をしていただいており、
よりスムーズなやりとりができるようになることに期待をしております。



これがその振り返りシートです。
職員視点での成果と課題、子ども視点（子どもの意見）での良い点、改善点
そして、その後の教育に活用できたこと、姿などを記入できるようにしました。
ただし、これについても、「埋めなくては」と思うと、また負担感を感じてしまいやすいので、埋められるところだけという注釈をつけています。
内容については、授業・保育内で子どもたちとフィードバックするような内容や、各校園の職員間でもするような振り返りの内容を記入できるようにしました。
そうすることで、改めて資料を作成するというよりは、各授業・保育をまとめるような気持ちで記入ができ、負担感の軽減ができるかと思いました。
また、子どもたちの姿が交流後にどのように変化したかに着目することで、互いに交流の意義を見出せるようにしました。



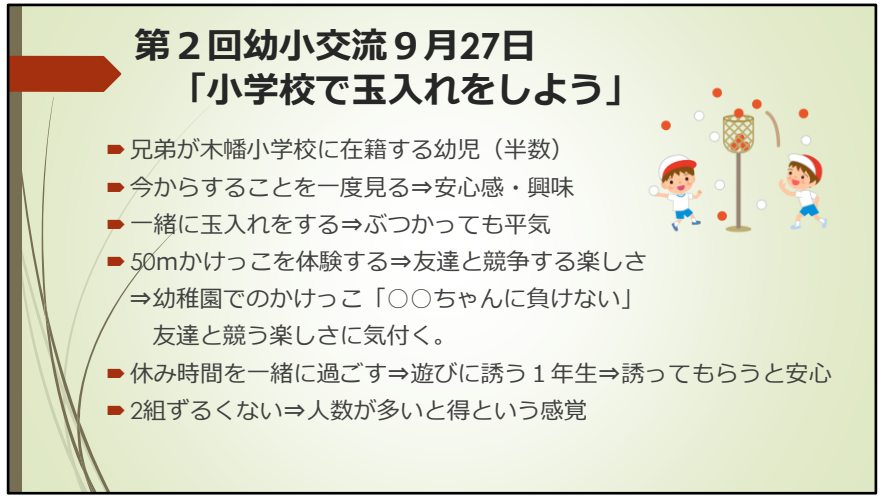
第１回目の交流「幼稚園で遊ぼう」です。
今年度の木幡幼稚園の５歳児８名は、真面目さはありますが、不安感や緊張感の高い幼児が多くいます。
幼稚園の子どもたちには「木幡小学校の１年生が来てくれるんだよ」と話すと、「〇〇ちゃん来てくれる？」「一緒に遊べるの？」と、
卒園児の名前を出し、一緒に過ごせることを喜んでいたのですが、



いざ、３組から到着すると、幼児同士できゅっと手を繋いで園庭の端にある遊具で遊ぼうとし、
教師が小学生と関わりをつなごうとしてもうつむいて黙ってしまったり違う場に走り去ったりする様子が見られました。
次に来た２組には、卒園児がいたので、卒園児を見付けると、笑顔で近寄り、少し緊張が和らいできたように感じました。
最後に来た１組の子どもたちは、自分たちから環境に関わる児童が多く、「サッカーゴールを使いたい」「砂場で水を使いたい」と思いを伝えてくれました。
そのような姿こそ、幼稚園の子どもたちにも刺激を受けて欲しいと思い、水についても、幼稚園でしているように、たらいに溜めて種類の違うバケツと共に置いておきました。
すると、大きな穴を掘ったところに何度も運んで流し始めた１年生。水が溜まってくると、幼児も興味をもって寄って来て、教師の近くで１年生のしていることを見ていました。

１年生が帰った後、皆で砂場を見に行き、出来ている大きな穴を見て、幼児から「砂場で遊びたい」という声が上がり、そのまま遊び始めました。
それまでも、下の園庭で砂場で遊ぶことはありましたが、さら粉をつくったり、ごちそうつくりをしたりすることが多かった幼児。
１年生が遊んでいたのを見ていたからか、「もっと水入れよう」「先生、靴脱ぎたい」と素足で砂場に入り、水を何度も運ぶなど、遊び方に変化が見られました。
それからも、大きなバケツを置いておくと、「こっちの方がたくさん運べる」と友達を呼び２人や３人で協力しながら重たい水を運んだり、
「私掘るから水汲んできて」と役割分担をしながら遊んだりするようになりました。

１組の中には、積極的に「一緒に遊ぼう」と声を掛けてくれる児童もおり、誘ってもらうと安心感から積極的に関わろうとする幼児の姿も見られました。
この写真は、帰る１年生に「また来てね」「また一緒に遊ぼうね」と伝えに行っている幼児の姿です。



第２回目の交流では、幼児が木幡小学校に行きました。
９月に入り、幼稚園でも、友達と力を合わせたり競い合ったりする運動遊びを楽しんでいました。
兄弟が木幡小学校に在籍している幼児が半数だったこともあり、場所に親しみを感じている幼児もいました。
それでも中に入ると緊張感もあり、表情が硬くなる幼児の姿がありました。

今回は、事前の打ち合わせに木幡小学校の中尾先生が幼稚園まで出向いてくださいました。
一緒に経験する前に少しでも、１年生がしていることを「見る」という体験をしたいとお願いし

横から見させてもらいました。
見ながら「すごい。玉入れだけじゃなくてダンスもしてる」「玉の色が違う」「幼稚園のとかごが違う」など、幼稚園で楽しんでいることとの違いに気付いたり、楽しそうと感じたりして、次に「一緒にしよう」と誘ってもらうと、
やる気に満ちた顔になっていました。

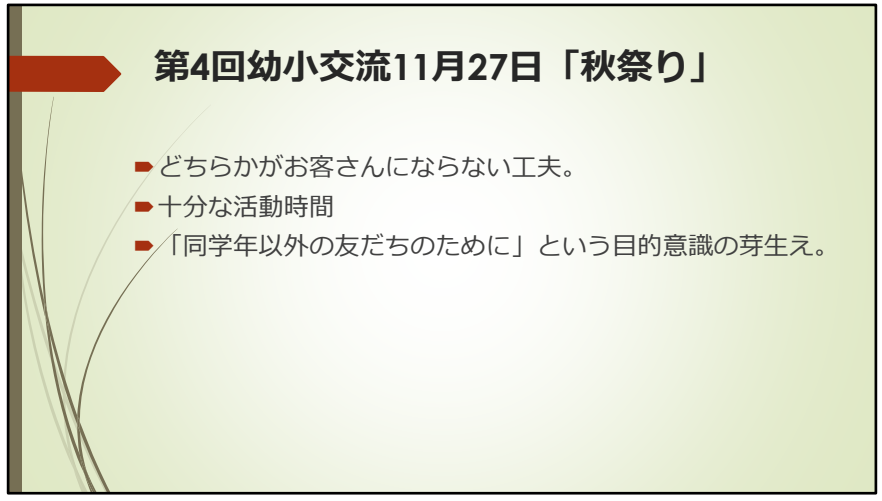
そして、人の多さも気にせず、２組の子どもたちに混ざって、多少ぶつかっても気にすることなく、玉入れを楽しむことができました。

その後、50m走も見せてもらい、途中のレースで幼児も走らせてもらいました。
園庭では50mの直線距離を走ることが難しく、そのような機会もないので、
ゴールしてから「はあ疲れた…」「走るのが長いわ」と笑顔で話し、グラウンドの広さを感じながら体を動かす心地よさを味わっていました。

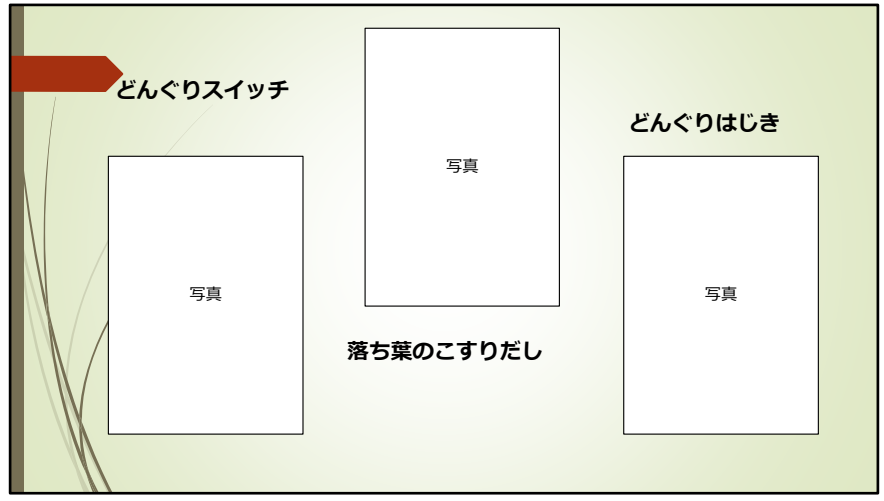
翌日、幼稚園での運動会ごっこで、かけっこをしました。
走る前に、名前とどんな風に走るかや頑張りたいかなどの意気込みをマイクで言っているのですが、
小学校に行くまでは「最後まで走るのを頑張ります」など、自分を中心においた一言が多かったのですが、
この日は「（一緒に走る）〇〇ちゃんには負けません」など、一緒に走る友達を意識し、「勝ちたい」という意欲が
言葉に表れていました。

小学校に行った日は、休み時間も１年生に声を掛けてくださり、「一緒に遊ぼう」と声を掛けてくれる１年生も多く、安心してついて行く幼児の姿がありました。
普段は不安で泣きだしてしまう幼児も、直接誘ってもらうと教師から離れて鬼ごっこなどの遊びに混ざる姿が見られました。
１年生の方から「前一緒に遊んだなあ」「覚えている？」と声を掛けてくれることが多く、一度一緒に遊んだという経験が、安心感につながるのだと分かりました。

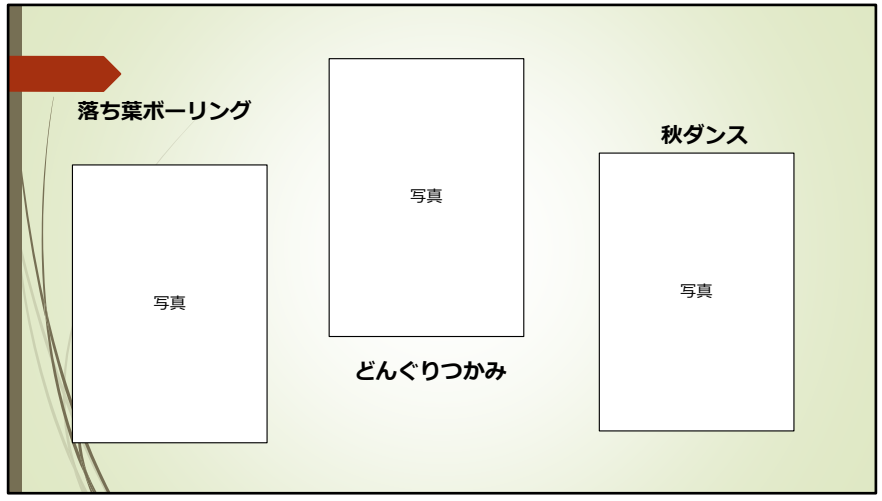
今後の交流では、木幡神社でのドングリ拾いを一緒にしたり、それらを使った遊びを小学校に持ち寄る「秋パーティー」を一緒にしようということになっています。
遊びと学びをつなぐ機会になるようにと計画していきたいと思います。
また、就学を意識し始める２月には、幼児が小学校の授業の様子を見たり、小学校の先生と関わったりしながら、小学校生活に期待をもてるような機会を
もちたいと思っています。


第4回幼小交流11月27日「秋祭り」
どちらかがお客さんにならない工夫。
十分な活動時間
「同学年以外の友だちのために」という目的意識の芽生え。

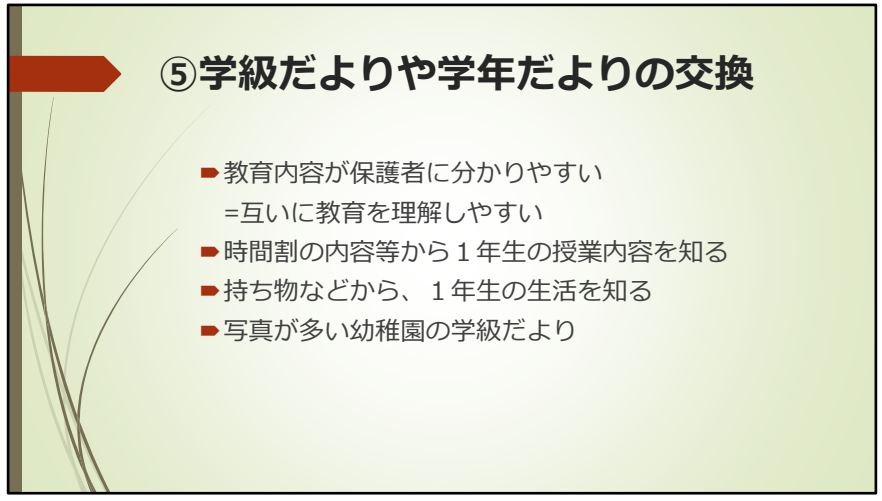
スライドと同じ



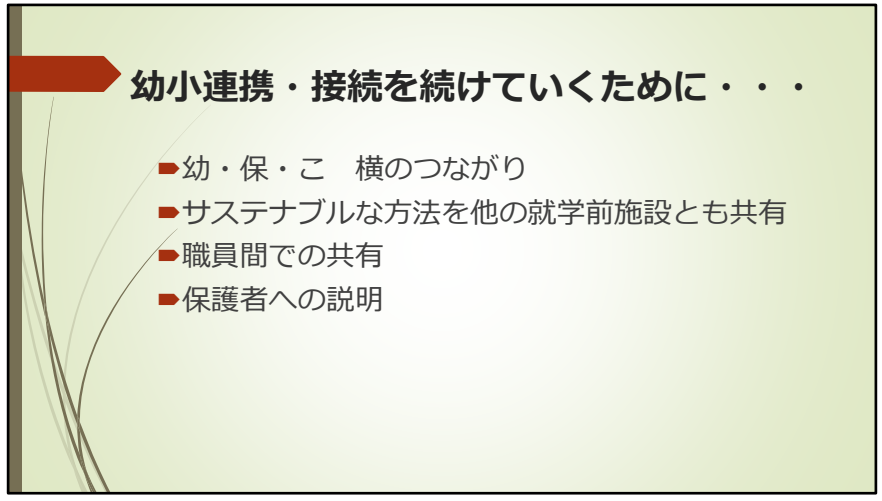
スライドと同じ



スライドと同じ



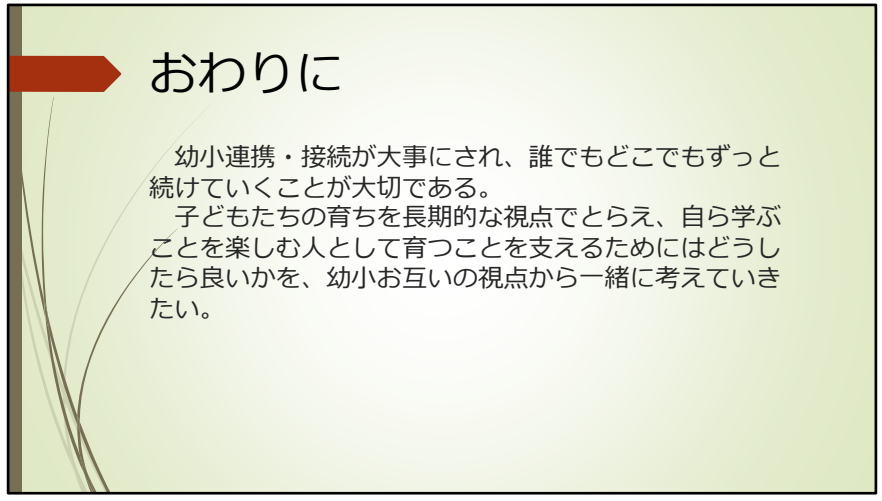
今年度は、中尾先生より、「にこにこ」という学年通信を幼稚園にもメール便を使って送付してもらっていました。
幼稚園では、それを回覧しながら、時間割や持ち物などから１年生の授業の内容を知ったり、中尾先生が付けてくださるメッセージから、１年生の砂場遊びの様子を知ったりしていました。
幼稚園からも、学級だよりを行事前などに出しているのですが、保護者にも幼児教育について分かりやすい内容を心掛けているので、
小学校の先生にも分かりやすいのではないかと思い、保護者宛に出したときには、小学校にも送付するようにしました。
写真も多く入れているので、小学校の先生にも、保育の内容をイメージしてもらいやすいかと思います。



ここまで、サステナブルな方法で、木幡小学校と木幡幼稚園での交流を続けてきました。
それは、中尾先生とも昨年度から顔見知りになり、互いに教育を見聞きしに行くような関係を築くことができたから
出来た部分も多いと思います。
今後、これを他の就学前施設や小学校等に広めていくには
まずは幼稚園ができるのは、横のつながりを意識することだと感じています。
他の就学前施設とも同じ幼児教育を目指せることが、小学校教育につながる基盤づくりには重要であると考えます。
今年度、京都府幼児教育アドバイザーを招いての園内研究会で、公開保育を行い、
そこに、同じ木幡小学校区の公立保育所である木幡保育所と北木幡保育所の先生に来ていただくことができました。
今後は私立も含めて、一緒に保育について語る機会をもつことが大切であると考えます。

また、小学校側からも、他の就学前施設とのつながりをもち、同じような交流を計画していくことで、より多くの幼児と児童が関わり
安心して１年生を迎える子どもが増えることと思います。

このような幼小での取り組みをそれぞれの園・校で担当教諭だけでなく、全体で共有することも、持続可能とするためには重要であると考えます。



以上が、今年度の木幡小学校・木幡幼稚園の交流編の報告です。